

第11回クラブ内ビデオコンテスト

第11回クラブ内ビデオコンテストが2月27日の定例会で行われました。今回は堤講師も参加して講評をいただきました。出席会員は10名、発表作品は9本でコンテストが行われました。

コンテストでは各作品を発表後に意見交換をせずに続けて鑑賞し、全作品の発表終了後に全員の投票により最優秀賞1名、優秀賞2名の入賞3作品を選出しました。司会は加藤代表幹事が務めました。

1. クラブ内ビデオコンテスト発表作品

最優秀賞 黒澤 眞さん「JR 初乗り切符で1都6県大回り」10分00秒 (HD)



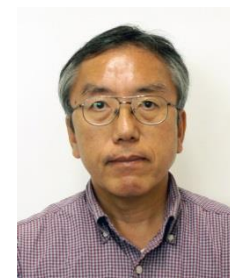
JR 初乗り140円切符で原宿から新宿に行くのに1都6県を大回りして493km乗り継ぎます。途中で改札を出たり、同じ駅を通る事は出来ず一筆書きの路線を乗車する事が条件です。評：ネタばらしは最初にしないほうが期待感が増すのではないかな。

優秀賞 渡辺 實さん「金婚旅行」8分30秒



金婚式の年に新婚旅行の足跡を辿って記録した夫婦旅(めおとたび)です。10年前の旧作です。評：昔の写真よりも現在の映像をもっと長く使ったほうが良かった。

優秀賞 荒木 勉さん「久喜の提灯祭り 天王様」7分47秒 (HD)



江戸時代から続く久喜の提灯祭りを、起源から解説しました。以前の例会にも出品しましたが、かなりの部分を見直して再編集しました。評：昼から夜にかわる映像をもう少し工夫したほうが良い。

加藤須満子さん「撮影会～多摩動物公園～」5分42秒



昨年11月、多摩動物公園へ撮影会に行った時、50年前の家族のことを思い出した。一人になった今は趣味のお仲間に支えられていることを実感した一日。評：前回のものから、頭に準備のシーンを入れたのはいいアイデアだった。

加藤 守さん「草津温泉共同湯めぐり」6分29秒



天下の名湯といわれる草津温泉には自治会が運営する共同湯が18箇所あります。すべての共同湯はまわれず9箇所のみ撮影でした。撮影の合間に入浴ができたのは、その内の5箇所だけでした。評：パンで周りの様子を見せ、アップを増やしたほうがメリハリが出る。

岩沢初男さん「足湯屋台で河津桜のお花見」6分25秒



私の家内の友達が河津桜のお花見に来るので、足湯屋台を組み立て、入浴しながら

ら桜を見ている。夜にはライトアップしました。
評：足湯屋台が面白かったが、河津桜の説明を入れると、寒い時期の足湯のありがたみが理解しやすい。

飯山一伸さん 「銀座パワースポット巡り」 4分40秒



東京街歩きツアーへの参加記録シリーズの作品です。今回は

銀座のパワースポットを紹介します。評：路地裏のコメントのところで建物の画が写っていたのが残念。

片山正晴さん 「自分史～インドの思い出～」 8分20秒 (HD)



平成25年の作品です。幼少時代の古い写真、シングル8で記録した結婚式から

子育てのホームムービー、ビデオカメラに収めた仕事で出張したインドでの思い出を自分史として綴りました。評：インドの工場は会社の規模や生産品の紹介を入れたほうがわかりやすい。

古谷 毅さん 「ツタンカーメン王の秘宝」 9分00秒



古代エジプトの遺跡の最大の発見といわれる、ツタンカーメン王の遺品は、カイ

ロのエジプト考古学博物館に収められています。その中でもツタンカーメン王の黄金のマスクを撮影できたのは幸運でした。評：世紀の発見であるツタンカーメンの説明を入れたほうが良かった。

2. 総評

通常の例会作品より力を入れていて、まとまった作品になっていた。共通の課題として、いろいろな人が見る場合を想定して、基本情報をきちんと説明したほうが作品への理解や興味が深まる。

◎ コンテスト作品の掲載

「コンテスト」発表作品はクラブのホームページ(HP)でご覧になれます。

みんなの広場



郷土の森で

肥田 元成

府中市郷土の森は市民憩いの公園です。2月の今頃の時期は梅が見ごろです。昨年、久しぶりに散策しました。それから数日後、ビデオ友達から「郷土の森博物館の常設展示室に、わらと竹で円錐形に作ったミニどんと焼き本体があつて作りのビデオを上映していたが、君ではないのか？」と聞かれました。確かに上映の了承を求められた為、後日常設展示室に行ってみました。ミニどんと焼き本体は確認しましたが、ビデオ上映は見当たりませんでした。そこで係員に尋ねると隣室に案内してくれました。確認したのですぐ帰ろうと思ったが案内された手前、帰りづらくて終わるまで見てしまいました。

4月例会のお知らせ

4月23日(土) 午後1時30分～5時

新年度初めての例会ですが会員数が減少して寂しくなっていました。会員増員に皆さまの協力をお願いします。

(編集後記)

最近、360度撮影できるビデオカメラが話題になっています。Googleのようなディスプレイを使用すると、どこを向いてもその方向の映像が表示されるというものです。よくできた映像ではあたかもそこにいるような臨場感が得られ、意外と面白い体験ができます。

(荒木 勉 記)